

1460

第一二二號

次官

閱

陸務

軍事

陸務

次

秋

航

第一二號

官宛

發信者

伊國大使館附武官

電報譯

一二月

六日

午前

午後

三時

四分

發著

昭和拾貳年三月七日

軍務課
前11-12
送發信

陸軍省
二二三几號

陸軍省

陸軍省
12.12.10

陸軍省
12.12.10

陸軍省
12.12.10

陸軍省
12.12.7

陸軍省
12.12.7

渡辺大佐ヨリ

十月三十日「リボル」港出帆「イルカニア」號ヲ以テ第一

次器杖ヲ輸送シ大連ニ直航セシム（十月二十五日電返）

到着二月八日ノ豫定搭載品目ノ概要次ノ如シ

是備發動機十二機豫備發動機六機豫備「プロペラ」

六爆彈及彈藥全數ノ二分一特殊工具豫備品部品

及材料其他飛行機地上運搬具、汽船ヨリ卸下具ヲ
モ附加ス。

ニ飛行機輸送ニ関シテハ伊國側ハ利害問題ヲ離レ
敵身^敵的ニ自國戦争ノ如ク活動シ最大ノ努力ヲ盡
セリ、天候連日不良ノ為「ピザ」飛行場土質軟カ
ク着陸危険ナリシモ著シク遅延スルヲ憂ヒ危険ヲ
冒シテ空中輸送ヲ敢行シ又同飛行場ニ於テ分
梱包作業ハ晝夜兼行休日ヲ廢シ之ニ從ヒ地上運搬
ノ為特殊運搬具ヲ新ニ設計シ其運搬ニ當リテハ飛行

電報譯

月 月

日 日
午前 午後

時 時

分 分
著 發

第 號

宛 發信者

場(空軍)ノ提防ヲ破壊シ又鉄道線路ノ踏切ヲ
 破壊擴大シテ通路ヲ開キ沿路交通ヲ遮断シ又
 船舶搭載ノ為ニ特別ノ波止場ニテ行ヒ秘密保持
 ヲ嚴シ且特ニ吊上法ヲ創意工夫設計シ多數飛機
 行機搭載ノ為ニ各種ノ工夫ヲ凝シ(カプロニー機)輸送
 ノ經驗アリシモ本機ノ如ク大ナラス本機ノ幅員特ニ大ニシテ

特種ノ新考案ヲ要セリ。殆ト連日雨天ニ拘ラス船長以
 下全員晝夜兼行業事ニ當リ吾人ノ要求ハ細大悉ク之
 ヲ容認シ熱誠タル活躍ヲ為シテ豫定ヨリ遲延セルハ
 不可抗力ニシテ内地ニ於テモ斯クノ如キ成果ヲ擧ゲ得サ
 リシモト認メ感謝ノ至リナリ。將來モアルコトニ付貴地
 伊國大使ヲ經テ伊國政府ニ感謝ノ意ヲ表セラレ度。日本
 船舶ニテ輸送ヲ断念シタルハ今回ノ結果ヨリ見テ誠ニ適
 當ナリシモト確信ス。尚揚陸頗ル困難ナルハ想像ニ
 難ラス。伊航第十號第二項ノ趣旨ニ依リ特ニ顧慮

電報譯

月 月

日 日
午前 午後

時 時

分 分
著 發

宛・發信者

第 號

セラルト共ニ航空本部ハ素ヨリ省部關係者ヲシテ
 船舶搭載要領及卸下輸送ヲ仔細ニ視察セシメラルル時ハ
 大型機ノ船舶輸送ノ如何ニ困難ナルカヲ知リ將來ノ參考ト
 ナルヘク又伊國側ノ之ニ關スル苦心モ諒解セラルルヲ以テ見
 學セシメラレンマトヲ切望ス

(終)